

沖縄・高江と憲法と 私たち

川辺 比呂子 (神戸YWCA 会員)



ポケモン GO やリオオリンピックで騒がれていたこの夏、沖縄・東村高江ではヘリパッド建設に反対する地域住民・市民に対する国による暴行・違法行為が始まった。そして、それは今も激しさを増して続いている。

1995年、少女暴行事件をきっかけに約束された基地負担軽減で、東村と国頭村にまたがる北部訓練場は面積の約半分が返還されることになった。しかし、返還区域にあるヘリパッドを残る区域に移設することが条件だった。新設ヘリパッド6か所は高江地区を取り囲む形で計画され、最も近い所では民家まで僅か400mしか離れていない。人口150人の高江はまさに「標的の村」にされた。地区住民は住民集会で二度に亘ってヘリパッド建設反対を決議し、2007年から現在まで9年間、工事現場入口にテントを張り、24時間体制で監視・座り込み活動を続けてきた。住民の願いは、ただ豊かな自然の中で静かに暮らしたい、生活を守りたいということだ。

この間完成した2か所のヘリパッドでは、約束違反のオスプレイが離着陸し、予想通り騒音被害を起こしている。「沖縄防衛局が測定した今年6月の騒音発生回数は1日平均32.8回。2年前の約8倍に増加した。午後7時～午前7時の夜間に記録された騒音は1か月に383回。毎晩12回以上の騒音にさらされた計算」(2016年7月23日朝日新聞)になり、そこから400mの所に住む小学生は夜眠られず、学校に行けなくなったため家族は現在避難しているという。

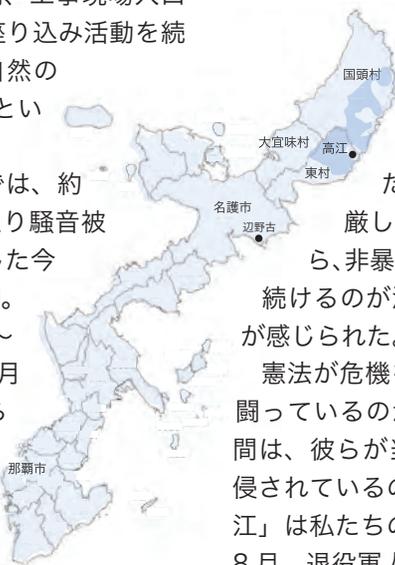
2年間中断していた工事が突然再開されたのは、参議院選挙投票日の翌日、7月11日の夜明けだった。沖縄では基地反対候補が現職の沖縄担当大臣に大勝し、基地反対の民意が再確認された直後のことだった。22日には、工事現場入口(N1ゲート)付近にあった住民たちのテントや車両が機動隊により強制排除され、けが人も出た。地元住民や県内各地からの市民200人ほどに対して、機動

隊は他府県から派遣された500人を加え、800～1,000人が出動したという。

N1ゲートに続いてN1裏ゲートの強制排除が予想された8月6日Xデー、私は呼びかけに応じて現地集会に参加した。怯まないではなかったが、現地の様子に居ても立っても居られない気持ちが入りこんだ。国会議員2人の呼びかけを心強く感じたこともある。集まる人の数が多ければ防衛局、機動隊も動けず、工事を遅らせることができる。

現地集会では、この暴挙で政府が犯している数々の法律違反を問うていくという弁護団の弁護士、国会で問題にし広げていくという国会議員、地元・愛媛で沖縄への砂利搬送反対運動をされている方などのお話を頼もしく聞いた。Xデー前日の夕方は1,000人、6日当日早朝には夜明け前からの雷と大雨の中500人が集まったからか、幸い機動隊、工事車の動きはなかった。そして、皆で「勝利」を祝い、歌を歌った。厳しい闘いでは「楽しくないと心が折れる」から、非暴力で「ゆるやかに、しなやかに、したたかに」続けるのが沖縄流の闘い方だ。闘いの現場には優しさを感じられた。

憲法が危機を迎えている今、憲法を活かして最前線で闘っているのが沖縄・高江の人たちだ。私たち本土の人間は、彼らが当たり前の生活を要求し、抗議する権利を侵されているのを黙って見過ごしてはいけぬ。「高江」は私たちの問題であり、私たちの憲法を守る闘いだ。8月、退役軍人らでつくる米国の平和団体「ベテランズ・フォー・ピース」が年次総会でヘリパッド建設中止を求める緊急決議案を全会一致で可決した。機動隊を導入しての日本政府の工事強行を「恥ずべき反民主的で差別的な行為だ」と非難し、米政府に同計画の放棄を求めているようだ。私たちはいまや「報道の自由度ランキング」世界72位の不自由な国に住んでいるが、知恵を絞って沖縄の人たちと共にありたい。「諦めなければ負けないから負けることはない」と現地の人は言う。



島村藍さんを
迎えて

チェルノブイリ原発で 私がみたもの、きいたこと、感じたこと

～福島未来、私たちの未来～



島村さんの話に引き込まれる参加者

8月27日(土)、神戸YWCA会館5階で島村藍さんを迎え、チェルノブイリ原発跡で島村さんの見たもの、聞いたこと、感じたことを写真とともに話していただきました。そして、手づくりのロシアンスイーツを食べながら、参加者もチェルノブイリへ思いを馳せました。

1年半かけて世界中を「旅」された島村さん。その旅の中でウクライナに出会い、チェルノブイリに行くことを思い立ちます。チェルノブイリで廃墟の風景を見つめながら、福島の未来を想ったそうです。

被災者支援プロジェクトが企画したこのプログラム、メンバーのひとり金本さんに感想を書いていただきました。



私は、恥ずかしながら、チェルノブイリの原発事故のことを詳しく知らず、2011年3月11日まで、日本で原発事故が起こることは思いませんでした。電気代が上がったときは「原発を使っているのに、何故、値段があがるんだ」と不服に思っていました。考えが足りなかったと思います。

フクシマの原発事故の後、人間が原発をコントロールできないこと、原発事故が起これば人災が続くこと、放射能汚染が途方もない時間続くことをわかっていたにも関わらず、エ

ネルギーやお金の問題と人権や環境問題を天秤にかけて、フクシマの原発事故が起こってしまったことに気づきました。もちろん、電気代が上がっても「エネルギー資源は限りあるものだから大切に使おう」と原発を使うことに肯定しなくなりました。

私にできることは、原発事故を知ることだと思いました。しかし、私はフクシマには行くことができますが、ウクライナに行くお金も有休もないので、島村さんのチェルノブイリのツアーの体験談を聴くことがで

きてよかったです。

島村さんは、私のように、原発事故に関心をもち始めた人にわかりやすいように、ツアーの内容に沿って、30年経過した現地の状況、事故当時のこと、自分が感じたことを教えてくださいました。それにより、原発事故の放射能汚染の解決には、途方もない時間が必要なことを感じました。チェルノブイリについて、少し立ち止まって考えることができよかったです。

島村さん自身は、世界旅行中にチェルノブイリの見学を思い立ち、帰国後、原発事故についてもっと学びたいと思うようになったそうです。今回参加された方は、原発問題に詳しい方が多かったので、島村さんにとっても有意義な時間になったそうです。この企画に参加された皆さま、ありがとうございました。(金本 美子)

「わいわい科学クラブ」は、5月2月の第3か第4土曜日に小学生向けの科学実験や理科工作をテーマにした90分ほどの「クラブ」を午前と午後の2回、開いています。



グループの活動を紹介します!

わいわい科学クラブ

毎年おこなう人気テーマです。2008年4月、身近な材料でおもしろ実験や工作をする、子どもたちひとり一人が体験できる、をコンセプトにグループを結成して以来、この活動は9年目。すぐに兵庫県青少年本部から助成金をいただける事になり、会場を借りて参加者募集チラシを配り、本格的に始めました。青少年育成団体である神戸YWCAへの信頼があればこそです。

当初はメンバーの齋藤さんと2人でサポートしていましたが、参加者の保護者や、ホームページを見て熟年者、学生、若い社会人などが参加され、最近は卒業生して中学生になったサポーターもいます。打ち合わせ会で準備について話し合い、当日は集まって、子どもたちをサポートします。クラブができるのは、サポーターとの協働運営の賜物です。

2015年度からは、少人数で子どもたちがじっくりと活動に取り組めるように、サポーターも時間や気持ちに余裕をもって活動できるようにしたいと考え、「理科実験工作教室」から「わいわい科学クラブ」に改称しました。神戸YWCA本館のチャペルや分室を会場にして、午前と午後の二部開催にしたため、一部あたりの参加者は減りましたが、落ち着いて、楽しく取り組んでいます。(井上みち子)

☘ カフェもぐもぐ
若年性認知症フォーラム

「カフェもぐもぐ」は2015年9月に若年性認知症の当事者と仲間たちの交流を中心に、地域と関わりを持ちながら「出会い・集い・学ぶ・働く」を柱に活動をスタートしました。

活動のブレイクタイムの雑談や交流会でチラリと覗く当事者の本音に触れた時、思わずハッと気づかされることがあります。当事者から直接の声を聴き、その思いや考えを知ることとはとても大切なことです。診断後、暮らしや社会的役割などに大きな変化を余儀なくされる当事者の声を聴き、暮らしや社会との関わりを地域の中で継続するためには、何が求められるのかを一緒に考える機会になれば、とシンポジウムを開催します。ぜひご参加ください。

「若年性認知症の人の
思いと願い

～私らしく生きていく
ために、今必要なこと～

日時：10月15日(土)
10:00～12:30(受付9:30～)
場所：神戸YWCA会館5階
参加費：1,000円
(当事者無料、同伴者500円)
定員：70人
申込方法：電話でお申し込みください(078-231-6201)。
申込締切：10月8日(土)
*定員になり次第締め切らせていただきます(先着順)。

入場無料!

神戸YWCA 秋のバザー 2016

KOBE YWCA
BAZAAR 2016

神戸YWCA 本館
10/10(日) 11:00～14:30



1977年8月、神戸大丸の階段踊り場の壁面で始められた神戸YWCAの原爆絵画展を拝見し、これこそ戦争を生き残った私のすべきことと、仲間入りさせていただきました。阪神淡路大震災で、1995年の19回目が最後となりました。

NHK広島放送局に持ち込まれた、被爆の悲惨さを描かれたご老人の、世界に一枚しかない貴重な絵! 前の月のカレンダーの裏には、伝えずにはいられない強いお気持ち! 被爆で弱った身体でもパンを求めるのが精一杯の姿……。

原爆絵画展に来られたお一人の方が、このような会をしていただいたお礼の言葉のあとで、見せてくださったのは、被爆者手帳でした。小さいお嬢ちゃん「お母様、戦争のない国に行きましょうよ」



原爆絵画展の様子

という言葉は、私の心から離れません。

私も85歳、お仲間と戦争のないお国にしたい、と小さい努力をしているの。あなたにお逢いしたいわ。

(飯濱 玲子)

● 世界YWCA・YMCA 合同祈禱週

11月13日(日)～19日(土)

テーマ「誰も置き去りにしない」

11月15日(火)

礼拝 9:00～10:00 講演 10:30～12:00
講師 吉田 実牧師 (日本キリスト改革派神戸長田教会)
参加費 500円
場所 神戸YWCA会館5階チャペル

11月14日(月)～19日(土)

静まりのとき

(ともに冊子を読みながら黙想します)
毎日 12:30～13:00
場所 神戸YWCA会館

YWCAは今後も誰かの居場所であり続けてほしいし、私もそのお手伝いができればと願っている。そこには長年培われてきたキリストの精神がいつもどこかにふわっと香っている。

「あなたがたはキリストの手紙です」尊敬する友人が教えてくれた言葉。そのふくよかな香りを大切にしていきたい。

(天川 啓子)



女性が集まるとおしゃべりが始まる。そこからいろんなアイデアが生まれていく。そのアイデアを実現する場所がYWCAだと思ふ。

YWCAの会員活動は、所謂「お仕事」でもないし、仲良しのサークル活動でもない。さまざまな立場の人が、肩書きを外して集まって、何かができる場所。人と人をつなぐ場所。

私事だが、福岡へ転勤が決まった時、神戸YWCAの方々がすぐに福岡YWCAへ取り次ぎをしてくださった。おかげで福岡YWCAは私の大切な居場所になった。素敵な仲間に出会えて心強かった。

帰神すると、また神戸YWCAの皆さんがあなたかく迎えてくださった。ありがたい。誰にだって居場所が必要だ。子どもたちのほっぴすくいる、わいわいランチ……。

神戸YWCAへの おさそい

神戸YWCA **本館**：神戸市中央区二宮町 1-12-10 tel. 078-231-6201
神戸YWCA **分室**：神戸市中央区坂口通 5-2-16 tel. 078-221-5111

●わいわい科学クラブ (小学生対象)

10月22日(土)「シュートぼうをつくろう」
11月26日(土)「ペットボトル空気ぼうをつくろう」
① 10時～11時30分② 13時～14時30分
参加費 1回200円 **分室**
ボランティアサポーターも募集しています！

●聖書を読む会 **本館**

11月10日(木) 13時30分～15時
参加費 500円(1回)

●讃美歌を歌おうかい **本館**

11月10日(木) 15時～16時
参加費 500円(1回)

●文学講座 **本館**

10月18日(火)・11月15日(火)
13時30分～15時30分
『徒然草』を読む
参加費 500円(1回)

●ピース・ブリッジ **その他**

10月29日(土) 18時～20時30分
『今だけカネだけ自分だけ』でいいの？
—『災害資本主義』vs.『ボランティア』
場所 神戸市青少年会館レクリエーションホール
資料代 500円

●どうなってるの、今の日本!? 言ってみよう

素朴なギモン! **その他**
11月2日(水) 18時30分～『結婚』って?』
場所 神戸青少年会館レクリエーションホール
参加費 500円

●神戸YWCA 学院同窓会講演会 **本館**

11月13日(日) 13～15時(終了後茶話会)
「子どものための日本語教育」
講師 福井武司さん(神戸YWCA 学院日本語主任
コース主任講師)
参加費 1,000円(一般)

●カフェもぐもぐ **分室**

若年性認知症の人と仲間たちのカフェ。
11月5日(土) 10時30分～15時
参加費 300円 *昼食はカレーを作って食べ
ます(要予約、別途食材料代が必要)。

●神戸YWCA クリスマス **本館**

12月3日(土) 13時～15時30分

●アドベントのアフタヌーン・ティー **本館**

12月6日(火) 13時30分～16時
待降節の礼拝 合唱「平和の祈り」他
「アンサンブル詩音」指揮 池内知子
参加費 1,300円(お菓子類の差し入れ歓迎)

ました。なんと、そこには0歳児さんも加わって、一緒に手をたたいているのですよ。みんな大きくなりました。

(園長・梅川 玲子)

■運営委員会報告

(7月・臨時)【報告】▶全国YWCA 会員総会参加申込▶日本YWCA 動画プロジェクト撮影実施。【議事】▶10月10日(月)秋のバザー(本館)実施を決定。

(9月)【報告】進捗状況▶秋のバザー▶フェス▶新しい活動づくりワークショップ。【議事】▶下半期の計画について(2017年度ビジョンと目標の検討、定期会員集会、全会行事の確認)▶3市YWCA 交流会日程検討▶フェス・プロジェクト来年度のプログラムとして検討。(書記・野村 春美)

■理事会報告

8月24日(水)第1回までの手未来プロジェクト開催。8月31日(水)第3回理事会開催。就業規則の変更の件。4階空調設備修繕の件。

(総幹事・寺内 真子)

■新入会員

天川 啓子 森田 浩子
ロニー・アレキサンダー

(敬称略)

■賛助員

加納 花枝 水野雄二(敬称略)

■訃報

鈴木幸枝さんが9月3日(土)に86歳で亡くなりました。生前は会員として長く活躍されました。

■編集後記

毎日世界中で、私たちの生命を脅かす出来事が起こっている。それを自分の事として受け止めているだろうか。

(H・N)

■学院だより

日本語コースでは、8月に「勉強に役立つ日本語クラス」で、19人の子どもたちが学んだ。受講希望者が多く、クラスに入れなかった子どもを対象に、宿題会などの初の取組みも行った。最終日には授業見学会を実施し、寄付者、学校やボランティア教室の先生、行政の方など、様々な形で子どもたちを支えてくださる方々とともに、修了式と修了パーティーの時を過ごした。

9月からレギュラー初級・プレ中級・中上級コースを開講し、15人が新たな学びをスタートした。また、9月21日から3か月、公共職業訓練を実施する。

日本語教師養成コースでは、現在、11月開講の「日本語ボランティア養成講座」の受講生を募集中である。

(原田 雅子)

■まごの手だより

ケアマネジャーには2つのタイプがある。月1回利用者の状況確認のため訪問し作成したケアプランが円滑に行われるようただ事務的に作業をこなすだけの人。一人ひとりの利用者と十分にコミュニケーションを取り、行政や医療とも連携し生活を支えようと努める人。

まごの手のケアマネジャーとして後者になれるよう日々自問自答している。最近では癌のターミナルの利用者も増え、利用者に寄り添えるよう心がけている。

(ケアマネジャー・福嶋 佳子)

■分室だより

わいわいランチのお弁当容器が変わります! その名も「P&P リ・リバック」。

山形県にある東北ヨコタさんの商品で、使い捨てお弁当

箱にフィルムが貼ってあり、使用後はそのフィルムをはがして容器のみ回収、リサイクルするシステムです。阪神大震災の時に、被災者がお皿にラップを敷き、使用後は汚れたラップをはがしてお皿を洗わない工夫をした、その知恵からヒントを得たそうです。

回収後の選別作業は、山形の障がい者施設メンバーが行います。容器代50円のアップとなりますが、環境に優しく、さまざまな方たちとつながっていただける新容器です。ぜひご理解・ご協力をお願いいたします。(西本 玲子)

■保育園だより

1、2歳の子どもたちは、夏の間トイレで排泄でき始めました。タイミングが合い、便器に座って排泄できた時の満足げな顔。思わず手を叩いてその場にいるみんな喜び



ゴーフル®

いいものは
時代をこえて
生き続けます

神戸風月堂

本社 神戸市中央区元町通3丁目3-10 TEL(078)321-5555
URL <http://www.kobe-fugetsudo.co.jp>



(有) 佐野葬祭

代表取締役 佐野 睦 (日本基督教団 甲東教会会員)

いーく に みく に
0120-592-392 (24時間受付)

宗教を問わずあらゆるお葬儀をプロデュースさせていただきます

尼崎市潮江4丁目2-2
URL: <http://sanosousai.com>